



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

キャリアでつなぐ 白山中区カリキュラム

一小・6年生「パネルディスカッション」～我孫子の未来について考える～

我孫子第一小学校6年生がオリジナルカリキュラムに位置付けた国語の時間で「パネルディスカッション～我孫子の未来について考える～」を実施しました。

パネルディスカッションをするに当たって、児童たちは事前に我孫子市の未来を考えた企画書を作成しました。この企画書は、市民の各世代10代～70代にアンケートを取ったものをいかしており、我孫子市民が求めているものを基本にオリジナルの企画を考案しました。この企画は、12月に我孫子市の企画政策課に提案することになっているそうです。「自分たちの企画が採用されるかもしれない。」そんな期待を抱きながら、真剣に企画をプレゼンテーションする姿は大人顔負けでした。



今回の提案には、「水上レストラン」「手賀沼水中トンネル」「ヨーカドーに韓ビニ」「我孫子～新木間のモノレール運行」「我孫子市のアニメ制作」の5つの企画があり、どれも思考を凝らしたものでした。プランを立てる上で気を付けることが6つあり、①みんなの願いに沿っているか ②本当に必要かどうか ③市の魅力をいかしたもの ④土地や場所 ⑤費用 ⑥根拠に基づいた正しいデータ を基本に企画構成されており、どれも聴きごたえのあるものでした。

プレゼンテーションのあとは児童からの質問があります。予期せぬ質問が来ることもしばしば。困ったときはサポート役の仲間と話し合います。質疑応答中、すべての質問に対して前向きに向き合う姿はとても立派でした。

まとめに、それぞれの立場から感想を述べました。発表者、質問者、司会、サポーター、児童はそれぞれに感じたことを話しました。感想からは、達成感と今後の課題が挙げられました。また、小中一貫の相互参観を兼ねていたので、四小、白山中からの来校者も一小児童たちのディスカッションする姿を参観し、小小・小中連携につながる機会となりました。

未来に残してつなぐ ふさカリキュラム～布佐小・3年「布佐のたからを見つけよう」

布佐小学3年生が総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた「布佐のたからを見つけよう」の学習を行いました。

児童は2学年時に学区探検を実施しており、学区にある公共施設や学区内にある商店等をおおよそ認知しています。3学年になって、この2学年時の学習を生かすと共に、発信力を高めるために布佐地区についてより詳しく調べ学習の内容を発展させました。



この学習では「ふさの町のすてき」と題して、事前に人々との交流や公共施設の訪問を実施し、気付いたことをグループで出し合いそれを基に全体で内容を確認しました。グループの話し合いでは、各自付箋に「すてきだな。」と思ったことを書き、「ふさの町のすてき」と書かれた模造紙に貼っていました。「図書館には読み聞かせをしてくれるところがある。」「本屋さんには子どもが楽しく本を読めるところがある。」など気が付いたことはどんどんみんなに広めています。

これをきっかけに布佐地区の様々なことについて理解を深め、最終的に布佐のよさ(たから)を発信するかるた制作に繋げていく予定です。